

第 11 回富士山利用者負担専門委員会における主な意見（2月16日）

1 公平で分かりやすい利用者負担制度の骨子案（議事 1）

(1) 条件付入域制度に対する意見

- ・ 条件付入域制度の手数料等に併せた徴収方法は、24 時間現地窓口を設置することになり、徴収コストが上がるのが懸念される。
- ・ 現在の協力金に対する一番の不満は、払っていない人がいるという不公平感。徴収コストが非常に高いこと、不公平感を一挙に解決できるのが一番良いが、まずは一つでも改善していこうという提案だと思う。
- ・ 徴収コストを大幅に下げる方法として、五合目観光客からも徴収する方法もあるが、五合目観光客とそこから上を目指す人が同じ金額を払うのかという新たな不公平感が生まれる可能性があり、2段階徴収という仕組みを考えなければいけない。
- ・ 協力金の反省事項として一番大きいのは、徴収コストの問題。そこは改善した方が良くと思う。登山者とか色分けせずに世界遺産富士山を満喫するための利用料を支払ってもらおう。徴収コストにお金が使われることは納得出来ない。
- ・ 徴収コストの問題や取りやすさの問題に議論が行きがちだが、条件付入域制度と併せた徴収の肝は、ある程度入域に制限をかけることにより質の高い登山体験が可能となるなど「富士山の利用のあり方」との整合性が高いことにある。
- ・ 富士山の五合目より上は静穏な、入域を制限された神聖な場所と考え、世界遺産富士山にふさわしい利用のためにはこの方法を取るということを地元の方々も含めて理解していただく必要がある。富士山の自然環境及び神聖な価値にふさわしいからやるという合意が必要。
- ・ お金をいただく仕組みを、徴収コストとしてではなく、登山者がメリットと感じられるものに結びつけていくことが必要。
- ・ 入域制度をつくり、特別徴収義務者を指定出来るかが、制度導入のカギだと思う。
- ・ 条件付入域制度について、山梨県と静岡県で五合目散策者等の取り扱いの相違や「利用のあり方」の検討体制、インセンティブの付与など検討しなければいけないことが多々ある。

(2) 「五合目観光客を対象とする制度を併せて実施」することへの意見

- ・ 基本的には条件付入域制度が良いと思うが、長いプロセスの一段階として五合目から上をまず対応するという位置付けにし、五合目観光客の負担は忘れることなく次の段階に進めていくことが重要だと思う。
- ・ 五合目観光客を含めた徴収を今すぐやることは非常に煩雑になり、実際進めることは難しい。まずは五合目から先に立ち入る来訪者の義務化を何とかし、次には五合目観光客も対象となることをある程度一般の方に知らせながら進めたらどうかと思う。